

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703451
法人名	株式会社 エルゼ
事業所名	愛好の里 グループホーム 青春・明苑
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東1-26-20 電話 093-618-7831

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供項目より】(平成 21年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋づくり		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費1日350 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (八店一時金含む)	有(94,500円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当り 1,550円			

(4) 利用者の概要 10月31日現在

登録人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2	要介護2	2
要介護3	5	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86.5 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三箇歯科医院 高嶋クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛好の里グループホーム青春・明苑は緑豊かな住宅街の一角にあり、ガラス張りの居間から水鳥の遊ぶ池や桜や紅葉など四季の移り変わりが楽しめる公園を見渡せる平屋造りの1ユニットのホームである。入居者はホームの敷地内に祀られた観音様に毎朝お茶を供えお参りすることを日課にしたり、自然豊かな周辺の散歩や入居者が温泉と呼ぶ見晴らしの良いお風呂を気の合う同士で楽しむなど、それぞれ個性豊かに暮らしている。生活のいたる場で入居者同志が気遣い、助け合う関係がみられ、管理者と職員は理念である「愛情を持って明るく楽しく共に笑える毎日を過ごします」の実践に取り組んでいる。開設5年目を迎え、地域との交流も増え、町内の盆踊りへの参加では一緒に踊りを楽しんだ入居者もいた。近隣の幼稚園から車椅子の寄贈があり、園児との交流が始まり、クリスマス会の来苑を楽しみにしている。地域密着型サービスとして、今後は運営推進会議を充実させ、地域の方が気軽に立ち寄り、介護についての相談が出来るグループホームになることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートが作成され、パンフレットへの理念の明記、自己評価への取り組み、重度化時の連携、権利擁護について取り組み等に改善が見られた。運営推進会議の定期的な開催、グループホーム協議会への加入や地域の同業者との交流の計画等は継続して改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で取り組み、意見を出し合い作成した。外部評価結果は誰でも見れる場所に掲示しており、新規職員は、評価報告書に必ず目を通すようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は6月・9月に開催している。出席者がそろわず開催できないこともあり、9月の会議は恒例の家族参加のバーベキュー大会後に開催するなど工夫をしている。会議ではホームの現状や課題を話し合い、会議録を整備している
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	重要事項説明書には、意見・苦情の窓口が明記され、玄関にはご意見賜り箱が設置されている。家族会はないが、恒例のバーベキュー大会には多くの家族の参加があり、家族同士の交流がある。家族からの意見や不安には管理者が対応し、内容や対応結果を記録している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から町内会に加入し、町内行事の案内がある。管理者が隣組役員を務めたこともあり、市政だより配布やごみ出し、近所の公園絵の散歩など入居者の外出機会を多くして、地域の方と接する機会を増やしている。町内の盆踊りの招待を受け、一緒に踊りを楽しんだ入居者もいた。近隣の幼稚園より車椅子の寄贈があり園児との交流が始まり、クリスマス会の来苑を楽しみにしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域との交流のもと、家族の立場で明るい介護をこころがけている方針を運営規程や重要事項説明書・パンフレットに明記し、理念に「愛情を持って明るく、楽しく共に笑えあえる毎日を過ごします」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には、理念を説明し、毎月のミーティング等、事あるごとに管理者は職員と理念を確認しあい、日々の暮らしの中で実践に活かそうと話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より町内会に加入し、管理者が隣組役員を務めたり、市政だよりの配布やごみ出し、近所の公園への散歩など入居者の外出の機会を多くして、地域の方と接する機会を増やしている。町内行事の案内があり、盆踊りを一緒に踊り楽しんだ入居者もいる。近隣の幼稚園から車椅子の寄贈があり園児との交流が始まり、今季のクリスマスには歌を披露していただく予定で、入居者は楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、意見を出し合って作成した。前回の外部評価後、ミーティングで話し合い、改善計画に取り組んでいる。外部評価結果は誰でも見れる場所に掲示しており、新規採用職員は評価報告書に必ず目を通すようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6月・9月に開催している。出席者がそろわず開催できないこともあり、9月の会議は恒例の家族参加のバーベキュー大会後に開催するなど工夫をしている。会議ではホームの現状や課題を話し合い、会議録を整備している。	○	運営推進会議の目的・開催日・参加メンバー、守秘義務や個人情報取り扱いを明記した実施要領の整備をお願いしたい。自治会代表、地区民生委員、家族の方々に参加をお願いし、定期的な開催で、出された意見をサービスの向上に生かされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険課に、利用状況等を電話で報告している。社会福祉協議会の介護相談員が月に1回訪問し、入居者の話を聞いたり、管理者は情報交換やアドバイスを受けていたりしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	北九州市主催の研修会に管理者が参加し、職員ミーティングで伝達している。日常生活自立支援事業を利用している入居者に、市社会福祉協議会担当者の訪問があり、職員の制度への理解も進んでいる。入居時にはパンフレットを活用して家族へ制度の説明をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	現在「ホームだより」は休止中である。家族が毎月の利用料支払いに来所された折に日常生活、健康状態を報告したり、状況に応じて電話等で連絡を取っている。毎月の預かり金は、出納簿が整備され、職員、管理者、家族の確認印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見苦情窓口を明記し、玄関に意見箱を設置している。恒例のバーベキュー大会には大半の家族が参加し、家族同士の交流の場となっている。家族の来所時には何でも話せる雰囲気作り心がけ、苦情対応記録を整備している。家族から、紙パットの使用量が増えたと指摘され、本人の健康状態を詳しく説明して納得していただいている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間の新規採用者は2名で、職員の異動はない。管理者は入居者と馴染みの関係づくりをするために、担当職員を決めたり、入居者と関わる時間を多く持つなどの配慮をしている。出産・育児で退職した職員が子供を連れて遊びに来たいとの要望があり、今後、入居者と退職後も交流を続けていけるように取り組む予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は、資格、年齢、性別の条件はなく、福祉職場を退職した介護経験豊富な職員の採用もある。雇用契約書や就業規則が整備され、休暇取得、残業手当、勤務配置等に配慮されている。職員の健康診断を支援し、10時と3時には入居者と一緒に休憩する時間を設けている。休憩室はないが夜勤時に休憩できる量のスペースがある。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	身体拘束高齢者虐待防止マニュアルは整備され、高齢者虐待防止の研修に参加し、伝達研修を行っている。入居契約書には、身体拘束の具体的内容を記載し、介護サービスの提供時に拘束を行わないことを明記している。入居者の人権についてはミーティングで話し合い、日々の入居者への対応に配慮している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画はないが、外部研修には、実務に支障がない職員が代表で参加し、伝達講習で共有している。職員の相談や意見は管理者が対応している。	○	新任及び現任職員の職員研修計画を作成し、段階に応じて計画的な研修機会が確保されることを期待します。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等同業者の連絡会に加入していない。来年度は職員のレベルアップにつなげるため加入を予定している。	○	福岡県高齢者グループホーム協議会への加入や他のグループホームとの交流を通じて、職員の育成やサービスの向上を期待しています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居制度を設けている。ケアマネジャーや家族からの問い合わせには必ず見学を勧めて、本人、家族の意見を十分聞いて対応している。入居当初は管理者が主に関わりを持ち、環境に慣れ安心して生活に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に作業するなかで、洗濯の仕方やたたみ方のひと工夫に生活の技を感じたり、昔の歌をはつらつと歌う姿に驚き、一緒に楽しい時を過ごしている。入浴後、入居者同士会話しながらドライヤーをかけ合っている場面があり、穏やかで支えあう姿に職員も喜びを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話を多く持つことで、本人の意向、生活歴や趣味・職歴を把握し、入居者本位生活が送れるように努めている。食事と服薬の拒否のある入居者は、食事の時間に娘さんが来てくださることで、改善できつつある。気付を職員間で共有するために、介護記録に色ペンシルで印を付けるなどの工夫がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を決め、全員参加の月1回の定期ミーティングでは日々の暮らしの中での気付きや介護計画について意見を出し合っている。介護計画が日々の支援に反映されるよう介護日記に記入され、全職員が情報を共有しながら介護できるよう工夫されている。介護計画は入居者や家族に説明され了承を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月毎に入居者・家族の意見に沿って、見直している。状況変化があれば協力医療機関の医師等と連携をとり、即対応を考えるなど計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できない時や急な受診は同行している。散髪の得意な職員の理容サービスは入居者とのコミュニケーションの場にもなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回訪問診療と週1回の訪問歯科診療を利用している。退院直後の入居者の対応に、主治医との連携で訪問看護を利用するなど、入居者の健康管理に努めている。受診結果は家族に報告し、経過は記録されている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合や終末期に向けての方針は決められていない。状況に応じて家族・主治医と話し合うことにしている。	○	重度化や終末期の対応についてグループホームとして出来ること、出来ないことを明確にした指針を整備し、できるだけ早い段階から、家族、主治医、職員等と話し合う機会を設け、関係者の方針の統一を図られることを望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に個人情報の保護について明記し、情報提供の同意書をいただいている。個人記録などはカギのかかる書棚に保管されている。法人の個人情報の保護に関する規程を玄関に掲示している。入居者に対しては「○○さん」と穏やかな声かけで対応している。	○	個人情報の利用目的を明記した書面を整備し、入居者や家族への説明と事業所内に掲示をお願いします。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のほとんどは池や公園を見渡せる日当たりのよい居間で過ごすことが多く、それぞれ個性豊かに身だしなみを整えている。ホームの敷地内に観音様が祀られ、毎朝お茶を供えお参りを日課にしている入居者もいる。入居前は歩行意欲がなかった方も手引き歩行ができるようになり、本人と職員の喜びにつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が自発的に、毎日11時30分になると居室にいても食堂に出て、ランチョンマットを広げたり、お茶をくんだり、配膳を手分けして行っている。職員も入居者と同じテーブルで同じ食事を食べながら、さりげなく介助している。天気の良い日には、遠賀川の土手に手作りのお弁当を持って出掛け、季節を感じながら食事を楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	池に面した明るい見晴らしの良いお風呂は入居者の楽しみになっている。隔日ごとに声かけあつての入浴や一番風呂をゆっくり楽しんでいる。入浴拒否があれば体調など観察して無理強いせず、声かけや対応職員を代えるなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が配膳や片付け等を自主的に手分けして行ったり、洗濯物干しやたたみ、入居者同士で入浴後の着衣の手助け等が自然に行われている。生活習慣により喫煙やコーヒーを楽しむ入居者もいる。天気の良い日には公園までの散歩やホーム内の広い天窓のある廊下での歩行練習はよいレクレーションとなっている。歌ったり、折り紙をしたり、弁当持参の外出などが計画されている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺は閑静な住宅地で、車の通りが少ない公園までの道を散歩したり、喫煙を好む入居者の買い物に同行したりしている。菜の花見物に出かけたり季節ごとの外出を計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない生活を実践している。玄関の出入りは台所や居間からガラス越しに見渡すことができる。ウッドデッキに出たり、敷地内の観音様や畑に出かける様子を、職員は気配り・目配りで見守りしている。今後はさらに、近隣に協力をお願いし、安全に過ごせるよう工夫を重ねていく予定である。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力を得て、年1回実施している。今年度は夜間災害を想定して、緊急連絡網等を確認する訓練を実施している。消火器、食品、水の備蓄がある。	○	非常災害マニュアルを整備し、交番や自治会の協力を得られるよう働きかけていただきたい。消防署の協力を得て、救急救命講習を実施してはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ランチョマット敷かれ、個人の湯飲みや箸を使用し食事が摂りやすい工夫がされている。1日の食事は1500～1600Kcalで提供している。毎回バランス良く完食してもらうため、一人ひとりの咀嚼や嚥下状態に配慮して、きざみ食、柔食、普通食を用意し、自力摂取を支援している。食事、水分摂取の記録があり、体重は10日毎に測定している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関はスロープになっており、横に菜園があり季節の野菜や花が植えられている。全面ガラスの窓やウッドデッキから向かいの池に遊ぶ水鳥や桜の咲く公園を見れる居間と食堂は、入居者が一日の大半を過ごす憩いの場になっている。居間にはソファ、テーブル、マッサージチェアが置かれ、入居者は思い思いのソファに座り、おしゃべりを楽しんでいる。傍のキッチンの食事準備の様子や、音や匂いが入居者に安心感を与えている。天窗のある廊下や畳のスペースも入居者の生活の場として活用されている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入口に、似顔絵や写真付きの名札を掲げ、部屋を間違えない工夫をしている。明るく、周囲の景色が楽しめる居室は、使い慣れた家具や神棚、仏壇が置かれている。部屋でゆっくり過ごしたい入居者の居室にはライニング椅子が置かれたり、畳とベットを選択できるなど、習慣や好みに合わせた居室作りになっている。</p>		